

年の瀬を迎えて

仲嶺 真弓

2016年も年の瀬を迎えました。時が経つのは早いです。

2016年を振り返れば、3月に「保育園落ちた日本死ね！」のブログが国会を動かし、良くも悪くも保育園事情と問題点が世間でもクローズアップされた出来事がありました。保育園を利用したいのに利用できない待機児童問題と、地域の中で保育園の騒音問題と設置問題など、日本のあちらこちらで起こっている日々のニュースを見ながら、他人事ではないと感じました。ありがたいことにこの熊取町は、ニュースになるような酷い状況ではないのでそのことに感謝しつつ、この地に保育園があることは、当たり前のように当たり前ではなく、決してその上に胡坐をかいてはいけな、地域への感謝の気持ちを忘れず、ここでできる限りの家族支援や地域作りに力を注いでいこうという思いを新たにしました。

4月には九州熊本地震の発生に驚き、テレビ画面に映し出された崩れ落ちた熊本城や阿蘇大橋を見て、5年前の東日本大震災を思い出しました。九州でも東北でも未だに続いている避難所生活を強いられている方々のことを思うと心が痛みました。そしてこの出来事も決して他人事ではなく、熊取でも起こりうることと捉え、何かできることはないかと考えたことの1つがパパ懇談会でのテーマ設定「防災について考える」でした。

6月には選挙権が20歳以上から18歳以上に引き下げられ、投票場が開設された学校もありました。18歳の選挙権についても賛否両論ありますが、若い世代の思考も取り入れていくという考えは素晴らしいことだけれど、私たち大人は若い世代に恥じないような生き方ができているのだろうか？「この国の未来につて」考えられているのだろうか？責任ある一票を投じることができているのだろうか？そんなことを考えさせられました。

世界に目を向けると、7月に相次いで起こったテロ事件の現状に目をふさぎたくなりました。バン格拉デッシュレストラン襲撃事件では、バン格拉デッシュの発展に貢献したいという志をもった日本人7名を含む23名が亡くなりました。フランス南部では花火の打ち上げ終了直後の群衆にトラックを暴走させるといふニーストラックテロで84名もの人が亡くなりました。日本でも神奈川県の大井町で「やまゆり園」で19人もの尊い命が奪われました。どの事件も殺害犯の人が人でなくなっていく背景には何があったのか…。被害者の人としての尊厳はどう守られるべきなのか…考えても考えても、答えがみつかりません。けれど考え、問い続けなければならない永遠の問題で、特に辛いニュースが多い今だからこそ、考えるべき時なのかもしれないと思いました。

さて、私自身の2016年はどうだったかをあらためて振り返りました。年の初めに立てたのは、「どんなことも学びに変え、自分自身の再生の年にする」という目標でした。結果を一言でいうと、有言実行できた年になったかと実感しています。先に記したニュースのあれこれについても深く考えることが多い年で、気付きもありました。“学びに変える”というところでは、NHKの番組で「SWITC インタビュー 達人達（たち）」という番組を通して見つけたことがありました。この番組の紹介をネットの文面を引用して説明すると、「達人が見ている景色、お見せします。異なる分野で活躍をする2人の”達人”が出会い語り合う。ただし、単なる対談番組ではありません。番組の前半と後半でゲストとインタビュアーを「スイッチ」しながら、それぞれの「仕事の極意」について語り合い発見し合う、いわばクロスインタビューです。」というコンセプトの番組なのですが、会話下手の私にとっては、ゲストの2人が自分とは違う視点、もしくは自分にはない視点をもつ2人が、それぞれがどんな質問を繰り広げるのかとても興味がありました。そして私自身が全く知らない職業の「仕事の極意」を聞けるのも楽しみなところでした。見逃し回数も多いので全ての回を見られる機会があれば嬉しいのですが、私が一番感銘を受けたのは「さかなクン×歴史学者の磯田道史」の対談でした。磯田氏が解読した江戸時代の古文書に記された食べ物を、さかなクンの知識で魚の名称を探り当て、江戸時代の食生活を知るといのが内容の一部でした。全く違う持ち味の2人が1つのことを解明していく話の展開に引き込まれました。この番組を通して、「人」を知ることの楽しさと「人理解」をするヒントを見つけられたように思います。今後の自分の人生に活かしていければと思います。



11/13 (日)

熊取こどもまつり in 北小学校

今年一緒に参加してくれた人はもちろん参加できなかった人も
来年はぜひ一緒に踊りましょう（卒園していてもOKですよ）♪